

ポーラ主催の働く女性の健康課題を考える 異業種合同参加型プロジェクト「タブーを自由にラボ」が 『Let's talk! 2023 in Sanrio Puroland』 イベントに出展 2023年11月23日(木)に開催

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、代表取締役社長：及川美紀）のフェムケアプロジェクトが主催する、働く女性の健康課題を考える異業種合同参加型プロジェクト「タブーを自由にラボ」が、株式会社サンリオエンターテイメント（代表取締役社長：小巻亜矢）が2023年11月23日（木）に開催する、女性のQOL向上を目指すイベント『Let's talk! 2023 in Sanrio Puroland』に出展します。

「タブーを自由にラボ」は、ポーラが女性活躍や女性の健康経営に取り組みたい16社の企業と共創し、女性の体についてのメカニズムやフェムテック市場について学び、実際に解決策を企画するもので、本年5月から5か月間、実施してきました。毎月メンバーで集まり、PMSや不妊治療、卵子凍結、妊娠出産とキャリア、ヘルスリテラシーに関する教育課題など、普段はなかなか声に出しにくいテーマにフォーカスし、有識者の講義やディスカッションなど多岐にわたる内容を通して、課題解決に向けて取り組みました。

今回「タブーを自由にラボ」として初めて、一般のお客さまに参加いただけるイベントへ出展します。ラボの活動でメンバー1人ひとりの「モヤモヤ」の声から解決策が生まれたように、参加者の方たちに、日頃から抱えている心や身体の悩み・不安の声に耳を傾け、自分の健康や健康課題と向き合う機会にさせていただきたいと考えています。

『Let's talk!2023 in Sanrio Puroland』 イベント概要

【日時】11月23日（木）11:00～17:30

【場所】サンリオピューロランド 1F エンターテイメントホール（東京都多摩市落合1-31）

【参加条件】トークセッションは事前申し込みが必要です。その他ブース展示などはピューロランドパスポートでご来場いただいた方はどなたでもご利用いただけます。

【ポーラのイベント内容】

- ①来場者参加型コンテンツ：心身の健康に関する「モヤモヤ」の展示
- ②「タブーを自由にラボ」各グループの女性の健康課題に関する資料を展示
- ③トークセッション
 - ・身体の不安や不調、モヤモヤについて（ポーラ「タブーを自由にラボ」メンバー 登壇）
 - ・身体／病気／社会の仕組みに関する正しい理解（ポーラ代表取締役社長 及川美紀 登壇）

【イベント全体HP】 <https://letstalk.tokyo/>

①【来場者参加型コンテンツ】モヤモヤの展示

「タブーを自由にラボ」の活動内で出たモヤモヤの声や、SNSで事前に募集したモヤモヤ、心や身体に関する悩み・不安を展示。イベント当日も、参加者の方に付箋で書き込んでいただけます。

事前募集については、下記をご確認ください。

<https://twitter.com/letstalktokyo21>



②「タブーを自由にラボ」活動資料の展示

「タブーを自由にラボ」のグループで導き出した、解決策のプレゼン資料を展示します。

<全5グループ>

月経のフィジカル・メンタル面の課題

社内における福利厚生課題

妊娠・出産・不妊治療、卵子凍結などの課題


キャリア・ライフステージの課題

ヘルスリテラシー向上に関する教育の課題

タブーを自由にラボ 最終資料 テーマ：社内における福利厚生課題

解決したいこと（誰の〇〇な課題を〇〇で解決する）

「企業」の「女性特有の健康問題に関する福利厚生がない」課題を、
「社内の女性のニーズを引き出すサービス「Fem care benefit」を導入することで解決！

<p>①なぜこの悩みに着目したのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内の福利厚生の適用範囲が限定的なことに着目 ・年代によって困っていることが違う中で、平等な福利厚生の制度しかない ・女性特有の悩み（更年期）への福利厚生が現状少ない 	<p>モヤモヤの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悩みをカウソナルに伝える機会がない ・ヒアリングを実施してないため悩みが顕在化しない ・福利厚生の適応が特定の層に 導入できない ・特定の層にない企業で健康意識の高まりが違ふ ・女性の健康課題が精神的なものに偏りすぎている ・制度を作る部署のインフラがない ・女性自身が悩みに気付いていない ・機会均等に提供されている ・施策を推し進めるインセンティブが少ない
<p>②なぜいま解決できていないのか</p> <p>背景：環境が変化したことに対して福利厚生の制度が変化しきれていない。 期待にも社会課題が変化し、資本主義経済で必要と認識され始めた多様なニーズに制度がついていない。 福利厚生制度の本質目的である「企業が労働者の健康の為に労働者の生活を見守ること」という本質が置きざりにされている。企業に平等に福利がないというバイアスは根付いている</p>	 <p>もし平等を問われたら？</p> <p>福利厚生は運用範囲を拡張や 手当てで対応することで 企業責任は果たせるか！</p>

③アイデア概要「～Fem Careはタブーではない～ Fem care benefit」

ターゲット 企業内、女性特有の健康課題に悩む女性

概要 フェムケア特需導入をサポート
①従業員サービス ②PCBタグの整備 ③モニタリング ※②③は稼働数順により質を高める

内容・特徴
実用性試験結果を踏まえ運用範囲から、フェムケア特需を導入できない3つの原因を克服。
要因①悩みが顕在化していない→数値と当事者の声から課題を顕在化
要因②当事者以外の理解が得られていない→タブー視されているテーマを語る機会設定
要因③当事者自身が解決へのアクションができていない→モニター制度を活用し具体アクションへ導く

③トークセッション（全4回） 12:00～17:15（予定）

※トークセッションは事前申し込みが必要です。： <https://letstalk.tokyo/>

テーマ：女性のがんについて語ってみよう

普段から多くの方が感じている身体の不調や不安、モヤモヤから、身体を知ること・検診の重要性、病気や身体について正しく理解し、考えるきっかけにさせていただく内容です。

ポーラからは「タブーを自由にラボ」メンバーと、代表取締役社長 及川が登壇予定です。

- ①身体の不安や不調／モヤモヤについて
- ②自分の身体を知ることについて
- ③女性の病気／女性のがんについて
- ④身体／病気／社会の仕組みに関する正しい理解について

「Let's talk」とは

女性にまつわる話題の中で、「タブー」とされやすい課題について、オンライン、オフラインで国内外の声を集め、対話が広がることを通して、女性たちのQOL向上、エンパワーメントに貢献するムーブメントです。女性の健康に関連する様々なタブーや偏見を乗り越え、オープンに語り合い、具体的なアクションにつなげる対話型のプラットフォームとして、世界的スーパーモデル、ナタリア・ヴォディアノヴァ氏と国連人口基金（UNFPA）が協力し、このムーブメントは世界中で展開されています。

主催：株式会社サンリオエンターテイメント Hellosmile

共催：fermata株式会社／国連人口基金(UNFPA)東京事務所／MOTHERS編集部

「タブーを自由にラボ」とは

ポーラが女性活躍や女性の健康経営に取り組む意欲のある企業さまと共創し、働く上での女性の健康悩みをテーマにした対面での異業種合同参加型プロジェクト。女性の体についてのメカニズムや女性の健康市場について学ぶこと、同じ課題を抱える仲間とともに、解決策を企画することが目的で、2023年5月～9月まで実施。

◇参加企業：株式会社朝日新聞社、キュービー株式会社、株式会社サンリオ、株式会社サンリオエンターテイメント、JR東日本ビルテック株式会社、株式会社ティーガイア、日清食品ホールディングス株式会社、パーソルキャリア株式会社、パラマウントベッド株式会社、株式会社日立社会情報サービス、株式会社日立製作所、株式会社ファンケル、など含む16社 各社数名ずつ参加

◇主催：株式会社ポーラ

アドバイザー（企画・運営・セミナー遂行含む）：fermata株式会社

